

鹿島市 子ども・子育て会議支援事業計画

--- 事業の点検・評価 ---

本市では、「鹿島市子ども・子育て会議」において、各年度における「子ども・子育て支援事業計画」に基づく施策の実施状況(教育・保育施設や地域型保育事業の認可等の状況を含む。)や、これに係わる費用の使途実績等について点検、評価し、この結果を公表するとともに、この結果に基づいた事業計画の見直しや取組内容の改善等を図ります。

併せて、事業計画においては、利用者の視点に立った指標を設定し、評価にあたっては、個別事業の進捗状況(アウトプット)に加え、計画全体の成果(アウトカム)についても点検・評価していきます。

平成28年9月
鹿島市子ども・子育て会議

鹿島市 子ども・子育て支援事業計画

目次

【事業の点検・評価を行う13事業・項目】

<事業名>	<事業担当課>	
① 利用者支援事業	・・・ 福祉課	P 1
② 地域子育て支援拠点事業 (子育て支援センター)	・・・ 福祉課	P 2
③ 妊婦健康診査	・・・ 保険健康課	P 3
④ 乳児家庭全戸訪問事業	・・・ 保険健康課	P 4
⑤ 養育支援訪問事業	・・・ 保険健康課	P 5
⑥ 子育て短期支援事業 (ショートステイ)	・・・ 福祉課	P 6
⑦ 子育て援助活動支援事業 (ファミリー・サポート・センター)	・・・ 福祉課	P 7
⑧ 一時預かり事業		
1 (幼稚園の預かり保育) 1号認定	・・・ 福祉課	P 8
2 (幼稚園の預かり保育以外)	・・・ 福祉課	P 9
⑨ 延長保育事業 (時間外保育事業)	・・・ 福祉課	P 10
⑩ 病児・病後児保育事業	・・・ 福祉課	P 11
⑪ 放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ)	・・・ 福祉課	P 12 ~ P 20
⑫ 実費徴収に係る補足給付を行う事業	・・・	P 21
⑬ 多様な主体が本制度に参入すること を促進するための事業	・・・	P 22

1	事業名	② 地域子育て支援拠点事業 (子育て支援センター)	2	担当課	福祉課	
3	事業内容	乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業です。子育て支援センターでは、子育て親子の相互交流の場として、子育てサークルを実施しています。また、平成26年10月からは、気軽にいつでも集える場として常設ひろばを開設し、子育て支援を行っています。				
4	確保方策 (計画)	本事業については引き続き、子育てに関する相談業務や子育てサークルの運営及び支援を行います。また保護者同士の交流の場を提供し、子育て不安の軽減や仲間づくりの支援を行うつどいの広場事業に新たに取り組んでいきます。				
5 進捗状況 (計画・実績値)						
(計画・実績値) 単位：人日/年間						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (A)	11,856	11,616	11,388	11,124	10,872
	確保 方策 (B)	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000
実績値	利用数 (C)	16,768				
(C)/(A)利用率		141.4%				
※利用率：「量の見込み(A)」と「利用者数(C)」との比較						
6 自己評価 (事業担当課)						
<p>子育て世代の親子が自由に集える場所の提供や、季節の行事や製作等を親子で楽しむサークルを月2回実施することで、参加者同士のつながりを支援し育児の孤立化防止に努めました。常設ひろばの土日開放は、母親だけでなく父親や祖父母に対する育児支援や、市外住民の利用による交流人口の増加に一定の成果が見られました。</p> <p>また、相談件数が移設前と比べ大幅に増えたことは、常駐スタッフの増員や気軽に相談できる体制づくりを行ったこと等が要因であり、育児不安の解消を図ることができました。</p> <p>新たな取組みとしては子育て中の親子が中学校に出向く「赤ちゃん登校日」を実施し、家族への感謝の気持ちや命の尊さを学び、中学生が結婚、出産、子育てという将来像を思い描く機会を持つことができました。</p> <p>※平成27年度実績：ひろば利用者数：16,768人 相談件数：4,204人</p>						
7 委員の意見						
<p><行政関係者より></p> <p>利用者数は見込み数をはるかに超えて利用率も高い。 子育てに係るイベント（「赤ちゃん登校日」の実施や日曜日は「パパDAY」と題し、段ボールを使ったりしてダイナミックな遊びを取り入れて親子の絆を築き上げているなど）も充実しており、気になる子どもにも配慮した取組を行っていることは高評価である。</p>						
8 評価						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
評価		○				
<p>○…十分事業が行われ確保されている △…一部見直しの余地がある</p> <p>×…見直しの余地がある</p>						

1 事業名	④ 乳児家庭全戸訪問事業	2 担当課	保険健康課
3 事業内容	乳児家庭全戸訪問事業は、母子保健推進員による訪問を実施しており、4ヶ月児健診の受診勧奨や育児に関する不安や悩みの相談に対応する事業です。		
4 確保方策(計画)	本事業は乳児家庭にとって重要な事業であることから、今後も子育てに関する情報提供や乳児及びその保護者の心身の状況及び養育環境等の把握に努めながら取り組んでいきます。		

5 進捗状況(計画・実績値)

(計画・実績値)		単位：人/年				
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (A)	290	290	290	290	290
	確保 方策 (B)	290	290	290	290	290
実績値	実施 体制 (C)	鹿島市母子保健 推進協議会に委 託				
	訪問 件数 (D)	268				
(D)/(A)利用率		92.4%				

※利用率：「量の見込み(A)」と「訪問件数(D)」との比較

6 自己評価(事業担当課)

計画値の量の見込みは、出生数を見込んだ数290件を確保していたが、実際の出生数は279人と計画値より少ない状況でした。実績値(268件)は出生数(279人)からすると96.1%の訪問実施率でした。

訪問ができなかった理由は、里帰り中や入院中などで4か月までに自宅に不在であることでした。今後も母子保健推進協議会と連携し、乳児のいる家庭を全戸訪問し、子育てに関する情報提供や家庭環境等の状況把握に努めていきます。

7 委員の意見

<児童保護者・行政関係者より>
母子保健推進員が訪問し、育児に対して不安や悩みがあれば相談に乗っている。以前は母子保健推進員が広く認知されておらず、訪問時に困惑する世帯も垣間見えていた。今後も子育てに従事する母親が安心して努められるよう支援をお願いしたい。

8 評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
評価	○				

○…十分事業が行われ確保されている

△…一部見直しの余地がある

×…見直しの余地がある

1. 事業名	⑤ 養育支援訪問事業	2. 担当課	保険健康課
--------	------------	--------	-------

3. 事業内容	養育支援訪問事業とは、乳児家庭全戸訪問事業により専門的相談支援が必要と認めた家庭、養育者が子育てに対して強い不安等を抱える家庭及び虐待の恐れやそのリスクを抱える家庭に対して市保健師や関係機関による相談支援を行う事業です。		
---------	--	--	--

4. 確保方策(計画)	養育支援が必要な家庭に対して、その居宅を訪問し、養育に関する指導・助言等を行い、その家庭の適切な養育の実施を確保します。		
-------------	--	--	--

5. 進捗状況(計画・実績値)

(計画・実績値)		単位：人(支援対象人数)				
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (A)	35	40	40	40	40
	確保 方策 (B)	35	40	40	40	40
実績値	実施 体制 (C)	市保健師 助産師 (佐賀県助産師 会委託)				
	訪問 件数 (D)	36				
(D)/(A)利用率		102.9%				

※利用率：「量の見込み(A)」と「訪問件数(D)」との比較

6. 自己評価(事業担当課)

平成27年度は、計画値より多くの訪問を実施しました。
 支援の必要な家庭については、必要な場合、福祉課や関係機関と連携し協議しながら支援しています。
 平成27年度からは佐賀県助産師会に委託し産前産後の専門である助産師により、妊娠期や産後間もない早期からの訪問を実施しました。今後も子育ての不安や悩みを解消できるよう助言等おこない、安心して子育てができるよう支援しています。

7. 委員の意見

<行政関係者より>
 児童虐待の危険性、若年妊娠出産など心配されるケースもあっている。
 こういう訪問事業を行うことで気になることが発生した場合は家庭相談員の方にも繋いでもらい、子育て支援センター「ひろば」の方でも色々な情報を掴むことに努め、強固なネットワークを支え取り組んでいただきたい。

8. 評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
評価	○				

○・・・十分事業が行われ確保されている

△・・・一部見直しの余地がある

×・・・見直しの余地がある

1	事業名	⑥ 子育て短期支援事業 (ショートステイ)	2	担当課	福祉課	
3	事業内容	保護者が仕事や疾病等の理由により、家庭における児童の養育が一時的に困難となった場合に、保護者に代わって実施施設において一時的に児童を養育することにより、家庭の子育てを支援する事業です。				
4	確保方策 (計画)	本事業については、ニーズの発生に応じて、他市町に受入体制があります。現状を維持することにより、供給確保を継続します。トワイライト事業(注1)と合わせ、保護者の多様化した利用目的に対応する有効な支援サービスとして周知を図るとともに、今後も増加が予想される緊急一時利用や、DV(ドメスティック・バイオレンス)により経済的に困窮している保護者への早急な対応を図ります。 (注1) 就労等の理由により休日、夜間に保護者不在となる家庭の児童を保護し、生活指導、食事の提供等を行う				
5 進捗状況(計画・実績値)						
(計画・実績値) 単位：人(支援対象人数)						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (A)	0	0	0	0	0
	確保 方策 (B)	1か所	1か所	1か所	1か所	1か所
実績値	利用数 (C)	13				
(C)/(A)利用率		下記、「6自己評価」参照				
※利用率：「量の見込み(A)」と「利用数(C)」との比較						
6 自己評価(事業担当課)						
<p>多様化する保護者の保育ニーズに対応するため、昨年同様、市外の児童養護施設へ委託をしました。</p> <p>平成27年度はショートステイの利用希望はなく、トワイライトステイの利用希望のみでした。</p> <p>※平成27年度実績：トワイライトステイ事業 延べ13件(3世帯)</p> <p>施設の職員体制や児童相談所からの委託措置児童の増加により、一部受入れが困難な場合もありましたが、利用理由のほとんどが保護者の休日・夜間就労のためであり、利用不可日は保護者が就労を調整することで家庭内での育児を行うこととなりました。</p> <p>核家族の増加等により育児を家庭内だけで担えない場合も増えることが予想され、今後は、施設利用等の保育サービスだけでなく地域内での子育ての助け合いを支える環境づくりの必要性があると考えます。</p>						
7 委員の意見						
<p><行政関係者より></p> <p>どういった利用者があるか?の意見に対し、主に利用希望は「第2子以降の妊娠出産」や「病気」になったりする場合に児童の預け入れを行ってもらっている。</p> <p>現在は市外の児童養護施設「済昭園」(嬉野市)に受け入れを行ってもらっている。</p>						
8 評価						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
評価		○				
<p>○…十分事業が行われ確保されている △…一部見直しの余地がある</p> <p>×…見直しの余地がある</p>						

1. 事業名	⑦ 子育て援助活動支援事業 (ファミリー・サポート・センター)	2. 担当課	福祉課			
3. 事業内容	子育て中の保護者を会員として、子どもの預かり等の援助を受けたいものと援助を行いたいものとの相互援助活動に関する連絡、調整を行う事業です。					
4. 確保方策(計画)	サポートセンターは現在、未設置ですが設置するとした場合、サポーターの養成講座事業、認定事業が必要になると考えられます。現在、サポーターの養成講座事業、認定事業は実施しておりませんが、今後は人材養成及びサポーター登録を検討していきます。					
5. 進捗状況(計画・実績値)						
(計画・実績値)		単位：人日／年間				
【低学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (A)	0	0	0	0	0
	確保 方策 (B)	0	0	0	0	0
実績値	利用 者数 (C)	0				
(C)/(A)利用率		0.0%				
【高学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (D)	0	0	0	0	0
	確保 方策 (E)	0	0	0	0	0
実績値	利用 者数 (F)	0				
(F)/(D)利用率		0.0%				
※利用率：「量の見込み(A)(D)」と「利用者数(C)(F)」との比較						
6. 自己評価(事業担当課)						
来年度からの事業開始に向けて、今年度は登録会員向けの講習会を10月以降実施予定です。						
7. 委員の意見						
<p><学識経験者・行政関係者より> 今年度10月よりファミリーサポーター養成講座(12回)を開催。 受講はだれでも参加ができ、選択しての受講も可能であり多くの参加を期待したい。 また、本事業を立ち上げるにあたって送り迎えの問題が今後でてくると思われるので、担当課との協議の場が今後必要だと思われる。 また利用する側と利用される側との相性も心配されるところ。</p>						
8. 評価						
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
評価	△					
○…十分事業が行われ確保されている				△…一部見直しの余地がある		
×…見直しの余地がある						

1	事業名	⑧-1, 2 一時預かり事業 (幼稚園の預かり保育) 1号認定	2	担当課	福祉課		
3	事業内容	幼稚園在園児を対象とし、通常の教育時間の前後や長期休業期間中などに、一時的に保育ができなくなった保護者に代わって希望者を教育(保育)する事業です。					
4	確保方策 (計画)	今後も継続して保育が必要な保護者や、緊急時の預かりを必要とする保護者が増加することが予想され、量の確保とともに、預かり時間中の安全・安心の確保のための人員の確保や設備等の充実を図ります。					
5 進捗状況(計画・実績値)							
(計画・実績値) 単位：人日/年間							
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
計画値	量の 見込み	(A)	1,862	1,862	1,862	1,862	1,862
		(B)	22,176	24,910	24,115	23,585	23,055
	確保 方策	(C)	1,862	1,862	1,862	1,862	1,862
		(D)	24,910	24,910	24,910	24,910	24,910
実績値	利用数	(E)	8,313				
(E)/(A)+(B)利用率			34.6%				
<p>※上記の計画値は市内幼稚園で保護者が就労をしていない場合の見込数(A)、保護者が就労をしている場合の見込数(B)、および保護者が就労していない場合の必要な確保数値(C)、保護者が就労している場合の必要な確保数値(D)を表す。 なお、利用率は量の見込み(A)(B)と利用数(E)との比較</p>							
6 自己評価(事業担当課)							
<p>平成27年度は市内で『認定こども園』の制度を開始した「明朗幼稚園」と私立の「カトリック幼稚園」にて対象児童の受け入れを行ってまいりました。 上記のとおり、計画策定の段階で設定した「量の見込み」および「確保方策」の各計画値は利用者数(内訳：明朗幼稚園は6,936人/年、カトリック幼稚園1,377人/年)をはるかに上回っています。実際の利用としては在園児を対象に、保護者の就労による都合や急な用事、疾病・通院等で預けざるを得なかったなど様々な理由で利用がなされています。また「明朗幼稚園」に至っては、件数的には多くはありませんが、土曜日での利用もあっております(うち433件)。</p>							
7 委員の意見							
<p><学識経験者・教育・保育関係者より> 現在鹿島市内では待機児童は存在していないと聞いている。 現場からの声とすれば預かり保育が出来るほど十分な職員の数には至っていない。 職員募集を呼び掛けているが確保が難しいところ。 また、認定こども園に至っては「幼稚園教諭」と「保育士」が在籍しているので連携の取り方が難しく労務管理に苦慮している。行政側からも何らかの補助事業で各園の手助けをしてほしい。</p>							
8 評価							
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
評価		○					
<p>○…十分事業が行われ確保されている △…一部見直しの余地がある ×…見直しの余地がある</p>							

1. 事業名	⑧-3 一時預かり事業 (幼稚園の預かり保育以外)	2. 担当課	福祉課			
3. 事業内容	保護者が病気や短期労働、社会文化活動への参加など、一時的に保育ができなくなった場合に保護者に代わって子どもを8時～17時まで保育所等で保育する事業です。日ごろ保育所等を利用していなくても、一時的に児童を預けることができる事業です。					
4. 確保方策 (計画)	今後も継続して保育が必要な保護者や、緊急時の預かりを必要とする保護者が増加することが予想され、量の確保とともに、預かり時間中の安全・安心の確保のための人員の確保や設備等の充実を図ります。					
5. 進捗状況 (計画・実績値)						
(計画・実績値)		単位：人日/年間				
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (A)	2,046	2,039	1,987	1,947	1,905
	確保 方策 (B)	2,046	2,046	2,046	2,046	2,046
実績値	利用数 (C)	1,693				
	(C)/(A)利用率	82.7%				
※利用率：量の見込み(A)と利用数(C)との比較						
6. 自己評価 (事業担当課)						
<p>平成27年度は市内保育所の全14か所において当該事業が行われました。 (内訳：4時間未満利用 610件、4時間以上利用 1,083件)</p> <p>利用事由としては、保護者の「勤務形態」、里帰り出産や疾病・通院、冠婚葬祭等の「緊急性」、「私的理由」などがあげられています。</p> <p>市内各保育所においても、保護者の共働きの増加や核家族化の進行、ひとり親世帯の増加など多様化する社会的背景も重なり、乳児や未満児等の需要が高まる通常保育に加え、保護者からの一時預かりのニーズに柔軟な体制で応えている傾向です。</p>						
7. 委員の意見						
※⑧-1, 2で出た意見と総括。						
8. 評価						
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
評価	○					
○…十分事業が行われ確保されている ×…見直しの余地がある				△…一部見直しの余地がある		

1. 事業名	⑨ 延長保育事業 (時間外保育事業)	2. 担当課	福祉課			
3. 事業内容	延長保育とは、就労形態の多様化等に伴う延長保育の需要に対応するため、開所時間を越えて保育を行う事業です。					
4. 確保方策 (計画)	本事業は、保護者の就業形態の多様化に伴い、今後もニーズが高くなることが予想されることから、さらなる時間延長の可能性、設備等整備や人材の確保等についての課題整理を通して、課題解決に向けた具体的な取り組みについて事業者等との調整を図ります。					
5. 進捗状況 (計画・実績値)						
(計画・実績値)		単位：人/年間				
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (A)	517	517	503	493	482
	確保 方策 (B)	643	643	643	643	643
実績値	利用数 (C)	671				
	(C)/(A)利用率	104.4%				
※利用率：量の見込み(A)と利用数(C)との比較						
6. 自己評価 (事業担当課)						
<p>平成27年度は市内保育所の全14か所において当該事業が行われました。 利用数(年間実利用児童数)は671人であり、内訳としては短時間認定(8時間保育)で102人、標準時間認定(11時間保育)で569人と量の見込みおよび確保方策を上回る数値となっています。</p> <p>平成27年度からの保育認定制度(保育標準時間と保育短時間)の導入により、適正な時間の保育を受けられるようになりましたが、特に保護者の就労の面で残業等の理由でお迎えが遅くなったりと、各認定区分を設けても定められた時間を越えて保育を希望する保護者が増えた結果だと思われます。</p> <p>なお保育標準時間認定では7:00～18:00の間(11時間)で必要とする時間の保育を受けることができ、18:00以降の保育を必要とするときは延長保育を申し込みます。一方、保育短時間認定では8:00～16:00の間(8時間)の保育を受けることができ、16:00以降の保育を必要とするときは延長保育を申し込む仕組みとなっています。</p>						
7. 委員の意見						
<p><保育関係者より> 延長保育料を徴収することにより、掛け込みで保護者の方が迎えに来るケースが増えた。 各園でも園児の管理にバラつきがあるのか。 →手書きで管理したり、園によってはタイムカードを持たせることによって登降園の管理をしっかりとこなっている。</p>						
8. 評価						
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
評価	○					
○…十分事業が行われ確保されている		△…一部見直しの余地がある				
×…見直しの余地がある						

1. 事業名	⑪ 放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ)	2. 担当課	福祉課
3. 事業内容	放課後児童クラブとは、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学生(1~6年生)を預かり、豊かな感性と道徳性を養うとともに社会性と自主性を育てることを目的とした事業です。		
4. 確保方策(計画)	本事業の実施にあたっては、学校等と連携し、放課後や週末等における子どもの安全かつ安心な居場所づくりを推進します。併せて、学校施設以外の多様な受け皿づくりも検討していきます。特に、特別な支援を要する子どもたちの受け皿づくりのための設備等の環境整備のほか、専門的な知識や技能を有する人材の確保等を検討します。		
5. 進捗状況(計画・実績値)			

【鹿島小校区】(クラブ名：わんぱくリス、パンダ)

(計画・実績値)

単位：人/年間

【低学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (A)	72	78	75	77	70
	確保 方策 (B)	79	80	79	79	79
実績値	確保 状況 (C)	76				
確保率		96.2%				
【高学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (D)	9	8	9	9	9
	確保 方策 (E)	9	8	9	9	9
実績値	確保 状況 (F)	4				
確保率		44.4%				

※確保率(確保方策)：「量の見込み(A)(D)」と「確保状況(C)(F)」との比較

6. 自己評価(事業担当課)

平成27年度から対象学年を小学6年生までに引き上げました。また、9月から地方創生事業を活用した預かり時間の延長(18時10分~19時00分まで)を行い、児童の健全育成を推進するとともに、保護者の就労と子育ての両立を図る環境整備に努めました。
利用児童数は増加傾向にあり、平成28年度からは新たに1施設を開設しました。

7. 委員の意見

<事業・教育・行政関係者より>
支援員の質の向上、数の確保は今後も課題とするところ。
研修会を開くことで、日頃から疑問に思っていたことを解決に結びつけ、心を痛めた支援員の回復にも繋げられる。
またお迎えの時間帯で駐車場内でのトラブルは無いか?の質疑に対し、保護者同士の混雑による事故等の事例も今は確認されていない。児童によっては通常での教室での過ごし方とクラブでの過ごし方に差異がある児童もいる様子。

8. 評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
評価	○				

○…十分事業が行われ確保されている

△…一部見直しの余地がある

×…見直しの余地がある

1. 事業名	⑪ 放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ)	2. 担当課	福祉課
3. 事業内容	前掲と同じ。		
4. 確保方策 (計画)	前掲と同じ。		
5. 進捗状況 (計画・実績値)			

【明倫小校区】(げんき、ほがらかA・B)

(計画・実績値)

単位：人／年間

【低学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (A)	90	78	84	83	88
	確保 方策 (B)	110	110	109	110	112
実績値	確保 状況 (C)	100				
確保率		90.9%				
【高学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (D)	11	11	12	11	9
	確保 方策 (E)	11	11	12	11	9
実績値	確保 状況 (F)	10				
確保率		90.9%				

※確保率(確保方策)：「量の見込み(A)(D)」と「確保状況(C)(F)」との比較

6. 自己評価 (事業担当課)

平成27年度から対象学年を小学6年生までに引き上げました。また、9月から地方創生事業を活用した預かり時間の延長(18時10分～19時00分まで)を行い、児童の健全育成を推進するとともに、保護者の就労と子育ての両立を図る環境整備に努めました。

利用児童数は年々増加傾向にあり、現在の施設では手狭になってきているため、計画的な施設環境等整備が必要となっています。

7. 委員の意見

前掲と同じ。

8. 評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
評価	○				

○…十分事業が行われ確保されている

△…一部見直しの余地がある

×…見直しの余地がある

1. 事業名	⑪ 放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ)	2. 担当課	福祉課
3. 事業内容	前掲と同じ。		
4. 確保方策 (計画)	前掲と同じ。		
5. 進捗状況 (計画・実績値)			

【浜小校区】(光の子A・B)

(計画・実績値)

単位：人／年間

【低学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (A)	27	28	30	32	31
	確保 方策 (B)	20	20	20	20	20
実績値	確保 状況 (C)	21				
確保率		105.0%				
【高学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (D)	3	3	3	3	3
	確保 方策 (E)	3	3	3	3	3
実績値	確保 状況 (F)	0				
確保率		0.0%				

※確保率(確保方策)：「量の見込み(A)(D)」と「確保状況(C)(F)」との比較

6. 自己評価 (事業担当課)

平成27年度から対象学年を小学6年生までに引き上げました。また、9月から地方創生事業を活用した預かり時間の延長(18時10分～19時00分まで)を行い、児童の健全育成を推進するとともに、保護者の就労と子育ての両立を図る環境整備に努めました。

利用児童数は年々増加傾向にあり、現在の施設の老朽化や利用児童数の増加に伴い、計画的な施設環境等整備が必要となっています。

7. 委員の意見

前掲と同じ。

8. 評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
評価	○				

○…十分事業が行われ確保されている

△…一部見直しの余地がある

×…見直しの余地がある

1. 事業名	⑪ 放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ)	2. 担当課	福祉課
3. 事業内容	前掲と同じ。		
4. 確保方策 (計画)	前掲と同じ。		
5. 進捗状況 (計画・実績値)			

【古枝小校区】(ひまわりA・B)

(計画・実績値)

単位：人／年間

【低学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (A)	37	38	35	36	38
	確保 方策 (B)	38	38	38	38	38
実績値	確保 状況 (C)	48				
確保率		126.3%				
【高学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (D)	4	4	4	4	4
	確保 方策 (E)	4	4	4	4	4
実績値	確保 状況 (F)	4				
確保率		100.0%				

※確保率(確保方策)：「量の見込み(A)(D)」と「確保状況(C)(F)」との比較

6. 自己評価 (事業担当課)

平成27年度から対象学年を小学6年生までに引き上げました。また、9月から地方創生事業を活用した預かり時間の延長(18時10分～19時00分まで)を行い、児童の健全育成を推進するとともに、保護者の就労と子育ての両立を図る環境整備に努めました。

平成27年度は、年度途中も申し込みが増え待機状態となったため、9月から林業体育館医務室に第2クラブの新設を行いました。

利用児童数は年々増加傾向にあり、計画的な施設環境等整備が必要となっています。

7. 委員の意見

前掲と同じ。

8. 評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
評価	○				

○…十分事業が行われ確保されている

△…一部見直しの余地がある

×…見直しの余地がある

1. 事業名	⑪ 放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ)	2. 担当課	福祉課
3. 事業内容	前掲と同じ。		
4. 確保方策 (計画)	前掲と同じ。		

5. 進捗状況 (計画・実績値)

【北鹿島小校区】 (かがやき)

(計画・実績値)

単位：人／年間

【低学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (A)	39	40	39	37	39
	確保 方策 (B)	42	42	42	42	42
実績値	確保 状況 (C)	40				
確保率		95.2%				
【高学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (D)	4	4	4	4	4
	確保 方策 (E)	4	4	4	4	4
実績値	確保 状況 (F)	2				
確保率		50.0%				

※確保率 (確保方策) : 「量の見込み(A) (D)」と「確保状況(C) (F)」との比較

6. 自己評価 (事業担当課)

平成27年度から対象学年を小学6年生までに引き上げました。また、9月から地方創生事業を活用した預かり時間の延長 (18時10分～19時00分まで) を行い、児童の健全育成を推進するとともに、保護者の就労と子育ての両立を図る環境整備に努めました。

利用児童数は年々増加傾向にあり、利用児童数の増加に伴い、計画的な施設環境等整備が必要となっています。

7. 委員の意見

前掲と同じ。

8. 評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
評価	○				

○…十分事業が行われ確保されている

△…一部見直しの余地がある

×…見直しの余地がある

1. 事業名	⑪ 放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ)	2. 担当課	福祉課
3. 事業内容	前掲と同じ。		
4. 確保方策 (計画)	前掲と同じ。		
5. 進捗状況 (計画・実績値)			

【能古見小校区】(すぎの子)

(計画・実績値)

単位：人／年間

【低学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (A)	37	34	30	26	28
	確保 方策 (B)	38	38	38	38	38
実績値	確保 状況 (C)	35				
確保率		92.1%				
【高学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (D)	4	4	4	4	4
	確保 方策 (E)	4	4	4	4	4
実績値	確保 状況 (F)	4				
確保率		100.0%				

※確保率(確保方策)：「量の見込み(A)(D)」と「確保状況(C)(F)」との比較

6. 自己評価 (事業担当課)

平成27年度から対象学年を小学6年生までに引き上げました。また、9月から地方創生事業を活用した預かり時間の延長(18時10分～19時00分まで)を行い、児童の健全育成を推進するとともに、保護者の就労と子育ての両立を図る環境整備に努めました。

7. 委員の意見

前掲と同じ。

8. 評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
評価	○				

○…十分事業が行われ確保されている

△…一部見直しの余地がある

×…見直しの余地がある

1. 事業名	⑪ 放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ)	2. 担当課	福祉課
3. 事業内容	前掲と同じ。		
4. 確保方策 (計画)	前掲と同じ。		
5. 進捗状況 (計画・実績値)			

【能古見小校区（浅浦分校）】（たんぼぼ）

(計画・実績値)

単位：人／年間

【低学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (A)	2	1	2	2	2
	確保 方策 (B)	10	10	10	10	10
実績値	確保 状況 (C)	10				
確保率		100.0%				
【高学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (D)	0	0	0	0	0
	確保 方策 (E)	0	0	0	0	0
実績値	確保 状況 (F)	0				
確保率		100.0%				

※確保率（確保方策）：「量の見込み(A)(D)」と「確保状況(C)(F)」との比較

6. 自己評価 (事業担当課)

平成27年度から対象学年を小学6年生までに引き上げました。また、9月から地方創生事業を活用した預かり時間の延長（18時10分～19時00分まで）を行い、児童の健全育成を推進するとともに、保護者の就労と子育ての両立を図る環境整備に努めました。

7. 委員の意見

前掲と同じ。

8. 評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
評価	○				

○…十分事業が行われ確保されている

△…一部見直しの余地がある

×…見直しの余地がある

1. 事業名	⑪ 放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ)	2. 担当課	福祉課
3. 事業内容	前掲と同じ。		
4. 確保方策 (計画)	前掲と同じ。		
5. 進捗状況 (計画・実績値)			

【七浦小校区】(ゆめっ子)

(計画・実績値)

単位：人／年間

【低学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (A)	24	22	25	24	26
	確保 方策 (B)	39	39	39	39	39
実績値	確保 状況 (C)	36				
確保率		92.3%				
【高学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (D)	3	3	3	3	2
	確保 方策 (E)	3	3	3	3	2
実績値	確保 状況 (F)	3				
確保率		100.0%				

※確保率(確保方策)：「量の見込み(A)(D)」と「確保状況(C)(F)」との比較

6. 自己評価 (事業担当課)

平成27年度から対象学年を小学6年生までに引き上げました。また、9月から地方創生事業を活用した預かり時間の延長(18時10分～19時00分まで)を行い、児童の健全育成を推進するとともに、保護者の就労と子育ての両立を図る環境整備に努めました。

7. 委員の意見

前掲と同じ。

8. 評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
評価	○				

○…十分事業が行われ確保されている

△…一部見直しの余地がある

×…見直しの余地がある

1. 事業名	⑪ 放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ)	2. 担当課	福祉課
3. 事業内容	前掲と同じ。		
4. 確保方策 (計画)	前掲と同じ。		
5. 進捗状況 (計画・実績値)			

【七浦小校区 (音成分校)】 (星の子)

(計画・実績値)

単位：人／年間

【低学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (A)	6	5	8	8	6
	確保 方策 (B)	15	15	15	15	15
実績値	確保 状況 (C)	15				
確保率		100.0%				
【高学年】		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画値	量の 見込み (D)	0	0	0	0	0
	確保 方策 (E)	0	0	0	0	0
実績値	確保 状況 (F)	0				
確保率		100.0%				

※確保率 (確保方策) : 「量の見込み(A) (D)」と「確保状況(C) (F)」との比較

6. 自己評価 (事業担当課)

平成27年度から対象学年を小学6年生までに引き上げました。また、9月から地方創生事業を活用した預かり時間の延長 (18時10分～19時00分まで) を行い、児童の健全育成を推進するとともに、保護者の就労と子育ての両立を図る環境整備に努めました。

7. 委員の意見

前掲と同じ。

8. 評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
評価	○				

○…十分事業が行われ確保されている

△…一部見直しの余地がある

×…見直しの余地がある

1	事業名	⑫ 実費徴収に係る補足給付を行う事業	2	担当課	*****
3	事業内容	保護者の世帯所得の状況等を勘案して、特定教育・保育施設等に対して保護者が支払うべき日用品、文房具その他の教育・保育に必要な物品の購入に要する経費及び行事への参加に要する費用等の助成を行います。			
4	確保方策 (計画)	当面の実施の予定はありませんが、国の指針等に基づき、ニーズが生じれば検討します。			
5 進捗状況 (計画・実績値)					
6 自己評価 (事業担当課)					
鹿島市では当面の実施予定はありませんが、総合計画の中で事業の優先順位等を勘案しながら、ニーズに応じて検討していきます。					
7 委員の意見					
意見等は無し。					
8 評価					
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
評価	△				
○…十分事業が行われ確保されている ×…見直しの余地がある			△…一部見直しの余地がある		

